

令和8年3月17日

陸前高田市議会議長 及川修一様

教育民生常任委員会

委員長 佐々木 良 麻

令和7年度 管外行政視察報告

教育民生常任委員会の管外行政視察の概要を下記のとおり報告いたします。

記

1 期 間

令和8年1月26日（月）から令和8年1月28日（水）まで

2 行政視察地及び研修項目

- (1) 愛知県豊田市（人口413,977人 世帯数191,056世帯 R8年1月現在）
ユニセフ日本型子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI）について
- (2) 社会教育施設視察「徳川美術館」（愛知県名古屋市）
国宝等展示物の管理体制と展示手法並びに多言語対応を学ぶ
- (3) 愛知県大府市（人口93,180人 世帯数41,301世帯 R8年1月現在）
おおぶこども輝く未来応援事業について

3 出席委員等 委員長 佐々木 良 麻 副委員長 大坪 涼 子
委員 小林 卓 委員 福田 利 喜
委員 及川 修 一
随 行 大和田 奈緒子（主査）

4 行政視察概要 別紙報告書のとおり

教育民生常任委員会行政視察報告

教育民生常任委員会は、愛知県豊田市、徳川美術館（愛知県名古屋市）、愛知県大府市において行政視察を行いました。

○愛知県豊田市

「ユニセフ日本型子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI）について」

【概要】

豊田市は、国連の「子どもの権利条約」の理念に基づきユニセフが推進する日本型子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI）に取り組んでいる。子ども条例を基盤に、子ども総合計画、子ども会議、権利相談体制、権利学習プログラムなどを組み合わせ、こどもの権利を行政施策に反映する仕組みを整えている。

子ども会議では、こどもたちが意見をまとめ、行政へ提案する機会が設けられており、NPOによるファシリテーション支援も行われていた。また、アンケート等による条例認知度の把握や「こども若者レポート」による施策データの整理など、データに基づく施策評価も実施されていた。

【所感】

子ども条例を単に制定するだけでなく、子ども会議や権利学習など具体的な仕組みとして運用している点が印象的であった。特に、こどもの意見表明の機会を制度として確保し、その意見に対して行政がフィードバックを行う仕組みは、こどもの参画を実効性あるものにするために重要であると感じた。

また、条例の認知度をアンケートにより検証しながら周知を進めている点も参考になった。本市においても、陸前高田市こども基本条例の周知について、資料配布だけでなく講座や対話型の取組など、理解を深めるための方法を検討する必要があると感じた。

○徳川美術館（愛知県名古屋市）

「国宝等展示物の管理体制と展示手法並びに多言語対応を学ぶ(社会教育施設視察)」

【概要】

徳川美術館は、1935年に開設された私立美術館であり、9件の国宝をはじめ重要文化

財を含む貴重な文化財を多数所蔵している。徳川家康の遺品や尾張徳川家初代藩主徳川義直の大名道具などを収蔵し、文化財の保存と展示の両立を図っている施設として広く知られている。

【所感】

文化財の保存管理については、素材に配慮した展示方法や管理体制が整備されていることが理解できた。また、来館者への解説では鑑賞ポイントを示しながら理解を促す取組がされており、伝える工夫が随所に見られた。

本市においても、社会教育施設や文化財の活用において、来館者の理解を深める展示方法や情報発信の工夫が重要であると感じた。

○愛知県大府市

「おおぶこども輝く未来応援事業について」

【概要】

大府市は、「おおぶこども輝く未来応援事業」として、結婚、妊娠、出産から子育て、教育、若者支援までのライフステージに応じた施策を体系的に整理し実施している。

「おおぶこども輝く未来応援八策」として、結婚・妊娠出産、子育て支援、幼児教育保育、小中学校、若者支援、生活相談支援、遊びや学び、地域づくりの8分野で施策を展開している。また、市民が利用できる施策を分かりやすく伝えるため、子育てガイドブックの作成や情報発信にも力を入れていた。

【所感】

結婚から若者支援までをライフステージごとに整理し、子ども・若者施策を体系的に展開している点が特徴的であった。施策内容を一覧化した資料やガイドブックを作成することで、市民が利用できる制度を理解しやすくしている点も参考になった。

また、近隣自治体と連携した若者の出会いの場づくりや、おむつのサブスクリプションなど、子育て世帯の負担軽減を図る具体的な取組も行われていた。本市においても、広域連携による事業実施や子育て支援施策の分かりやすい情報発信について検討する必要があると感じた。